

きつきサンドイッチ - 広がるコミュニティは城下町の具 -

江戸時代、松平3万2000石の城下町として栄え、南北の高台に武士が住み、その谷間に商人が暮らしたため凸凹である「サンドイッチ型」城下町となった。世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域など農業においても有名な地域です。しかし、それぞれの農家が集まって直売をすることなどはあまり行われておらず、地元住民に農産物の良さが浸透していません。なので、江戸時代に商人の町として栄えた城下町は今以上に活気のある街となる可能性を秘めています。よって、私たちは第一次産業を主とした活動拠点を提案します。



いまの梓葉市の様子



梓葉地域では、特有の地形と豊かな自然環境により農作物や漁業、家畜などの第一次産業が活発に行われています。その中でもきつき茶やみかんがブランドとして人気を誇っています。

生産者のコミュニティ



第一次産業の生産者が食材を持ちよることで生産者同士や地元住民との交流が生まれるような市場を設けます。凹型の向かい合った地形は一体的な空間となり農業振興の拠点となります。

地域住民のコミュニティ



キッチンハウスでは、市場などで手に入れた梓葉の新鮮な食材を用いて料理を作り、住民どうしの様々な交流の場となります。みんなで集って楽しく食べることで、地域農産物への愛着心や安心感を深めることができます。

観光客のコミュニティ



この場では、訪れた人は生産者から直接話を聞き、梓葉の食を堪能することが出来るでしょう。地元の住民に溶けこみながら梓葉独特の街並みを味わい、文化に触れ、のんびり観光出来るような空間を創出します。

こんにちは！
僕の名前はサンドイッチくん☆
梓葉には日本に1つしかないサンドイッチ型の城下町があるよ！
今日はそんな梓葉をより豊かにするための提案をするよ！

プログラム

お魚市場
自然では地理的な条件を利用し、多様な漁業が営まれています。ここでは梓葉の地元の漁師さんたちが獲れた魚を直接販売しています。

きつき茶屋
きつき茶は梓葉の特産品のなかでもブランドが確立しています。独特の口どけとコク、深く豊かな香りが特徴です。きつき茶屋ではそんなお茶を飲んだりお茶体験をすることが出来ます。

お肉市場
お肉市場では、大分を代表するブランド牛の豊後牛や天然のしん肉などを中心に梓葉で育った家畜による新鮮な肉や卵を販売します。

野菜市場
野菜市場では梓葉の豊かな自然で育ったお肉の新鮮な野菜を販売することが出来ます。

キッチンハウス
キッチンハウスは、短期宿泊の方や日帰りの観光客、地元住民の方などあらゆる方が使用することが出来ます。なので、多様な使い方が出来るようなプランニングをしました。キッチンハウスを大きくしたり使用人数のニーズに合わせて使い方が変わります。また、市場から食材を買ってくるので市場の方向にそれぞれのキッチンハウスと屋根が向いており市場とのつながりを意識しています。

学習・交流施設
子どもも利用できるキッチン・宿泊所です。市場で買った野菜をすぐに調理し食べることが出来ます。オープンな作りとなっており、外から調理を楽しんでいる姿が見えます。

展示施設
まちで使用する御神輿や山車の展示施設です。地域文化への愛着と誇りの継承のための施設となります。

学習・交流施設
寺子屋ゾーン、交流ゾーン、ファミリゾーンがあり、子供やお年寄り、観光客の幅広い世代が交流します。

展示施設
まちで使用する御神輿や山車の展示施設です。地域文化への愛着と誇りの継承のための施設となります。

食文化 **子供** **地域文化**

環境解析

日影シミュレーション
展示としての透明性を保ちつつ直射日光のコントロールを行います。

柱形状の検討
最新モデル：柱をルーバー状に配置

視線1：柱間 1000mm
視線2：柱間 200mm

群集シミュレーション

群集シミュレーションを行い、町に連続性を創出します。

エネルギー評価

エネルギー評価を行い、環境を考慮した建物を提案します。

CO2排出	CO2	CO2	CO2
kg/㎡	kg/㎡	kg/㎡	kg/㎡
0	304	119	6
3206	1168	292	6
2393	324	324	584
5599	1723	1723	2000
	5100	2830	2600

CO2排出量比較(目標値他)

市場ゾーン、キッチンハウスゾーンを向かい合わせで配置し、お互いが見える・見られる関係によって城下町の食を介した交流を生む。また、学習・交流ゾーンを、市場・キッチンハウスによる梓葉の食文化のエリアと、展示ゾーンによる歴史的な地域文化のエリアの中央に配置することによって、日常的に梓葉の文化を感じられる場所とした。

生産者・地域住民・観光客と新しいきつき

生産者のメリット
城下町に梓葉の特産物の市場を集めることで、生産者たちにとって住民や観光客に対して産物への取組みや工夫を常に発信することができる場所となります。また、生産者同士の情報交換など行われることで農業振興の拠点となります。

住む人々の新しい日常
直売所があることによって、地域住民は地元の農産物の旬の本当のおいしさを目で見て感じる事が出来ます。また、「交流の場」と「展示施設」を隣接することによって、住民にとって地域文化がより身近なものとして感じられます。

訪れた人が知る本当の梓葉
この場所に訪れた人は、梓葉の食文化を「食べること」、「つくること」によって体験し、また梓葉の祭り文化を知ることが出来ます。市場や交流の場を生産者や地域住民と関わることで、住む人々による梓葉の姿を知ることが出来ます。

まちの断面

市場・キッチンハウス断面
新しく提案した建物が既存の美しい街並みに溶け込むことはもちろん、新しく提案した建物同士の「見る、見られる」といった関係も意識した設計になっています。それにより、城下町全体により一層の一体感が生まれ、まち「なみ」としての価値が高まります。たとえば市場の正面部分は、それぞれの近くにあるキッチンハウスを向くように角度を付けてあります。これにより、市場の中にいる人がキッチンハウスでの料理の様子をうかがったり、キッチンハウスから市場の賑わいを見ることが出来るようになります。

展示施設断面
向かい合う大きな敷地に、大きなボリュームを必要とする展示施設を設けました。比較的大きな建物が隣接しているため、街並みに違和感なく溶け込みます。また、同じボリュームで向かい合わせることで、城下町の入り口を印象付けることも出来ます。この建物はイベント時に一体として使用することも出来ます。

⑨野菜市場

市場は主に3つのゾーンでできています。この3つのゾーンを壁などで仕切ることをせず境界線をあいまいにすることで、生産者や地元住民、観光客が互いに交流を深める機会を増やします。チャレンジショップゾーンは販売カウンターのみの可動式の仕切りで区切れるようにし、キッチンハウスをオープンにしています。調理の様子を他のゾーンから見られるため調理の実演などもでき、生産者とお客との密な交流を可能にしています。

④キッチンハウスD

⑥学習・交流館

梓葉の高齢の方々や子供が集まり地元の方々の交流の拠点となるべき場所です。寺子屋ということで、ここでは夏休みの子供達が勉強をする場合や、高齢の方や地元住民の方が勉強を教える場所です。この寺子屋では大きく3つのゾーンがあります。寺子屋ゾーン、交流ゾーン、ファミリゾーンといった3つのゾーンが存在し、それぞれのゾーンが互いに交わり合いながらどこにいてもそれぞれのゾーンを意識する事が出来る配置にしました。

⑥北展示施設

南北に渡る展示会場ですが、ここでは梓葉の文化である山車を取入れ、展示する建物を配置する計画から梓葉の門となる建物を想定した設計しました。外部から山車が見えることで梓葉の文化が訪れた人に自然と伝えることが出来ます。展示場では山車に直射日光が当たらないように日影シミュレーションをかけ柱の形や角度を決め、光をコントロールすることで外部からの視線と入射する光の両方に成功し透明感のある展示場を設計しました。

